

柴田先輩



題字 廉隅 進

BN 751 諏訪本充弘

早いもので、柴田先輩と、最後にお会いしてから、一年が経ってしまいました。

昨年の6月20日空色山の会のミーティングのあとの二次会を終え、馬喰横山の駅から地下鉄に乗り神保町で「諏訪本、またな」と言っ

て別れたのが、お目にかかった最後でした。そのときのお話で、年明けは調子が悪くひどく疲れるとおっしゃっていて、ようやく暖かくなって山に行ける体調に戻ったので、夏からボチボチ山に行くんだと、明るく話していたのが、一月も待たずに訃報を聞くとは思

いもありませんでした。柴田先輩と親しく話をできるようにしたのは、2005年5月の空色山の会の樺橋会長の週末連続登山500回記念で、ユーシンロッジに泊まって、蛭が岳に登ったとき、満開のヤシオつつじがきれいだったので、よく覚えて

第 47 号

明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部
なため会会報



柴田先輩（右）と私（中央は東武建設の時田氏）

やむやにしていままで過ごしてきました。先輩ごめんなさい。

声をかけると、実はバイパス手術をしてるんだと聞いて、びっくりしたものでした。私も柴田さんも空色では初めての山行で、実は同期なのですが、柴田さんはどうも、諏訪本の方が早いと思っていて、諏訪本先輩とか何とか言われていました。私もその辺はう

翌年二月、手白の雪下ろしの帰りに明テラスで一本取った際、柴田先輩がうつかりメガネを落とし、その4月末の山荘の薪買い付けの契約で、明テラスを通りがかったら、すっかりメガネがあつたので、何も言わずに宅急便で送ったところ、すぐにお礼の電話があつたのも今はいいい思い出です。

写真は先輩がなため会の会長の最後の年、最後の奉公だとおっしゃって手白小屋改装の荷上げに参加した時のものです。

材木を肩にかついで、現役より俺のほうが上手いと自慢げに話されていました。

そう言えば、針生山荘のオーディオのメンテナンスをしなればなどと、気に懸けていたでいて、暇になったので行こうと言っていました。約束を果たしていた、だけぬまになつてしまいました。

まもなく、先輩が亡くなって一年が経とうとしています。今は御冥福をお祈りするほかありません。

続・奥鬼怒山荘(手白沢小屋)への路 4

BN 683 横手 一男

平成3年9月20日〜10月1日、岩田潤主将で第36回リーダー養成Wが行われました。今年には坂本部長先生が10月1日をもって、中央商科短期大学の学長に就任されました。それに伴いワンダーフォーゲル部の部長を辞任されました。長い間、坂本先生に大変お世話に

なりました。

さてリーダー養成Wは毎年、男鹿山塊から奥南会津地域にかけて行われる。次期クラブ活動の中心となっていく三年生が主体で、自らを鍛えるワンデリングである。三年生16名が準備期間もかなり前から行い、検討会で内容を吟味して行う。9月20日からの男鹿山塊はいままでのコースを踏破しない先を企画した。上海岳く黒滝股山く赤柴山のコースである。9月26日針生山荘において前半のコースの検討と反省を行う。後半のコースを確認して検討会を終了した。翌朝、目を覚ますと外は雨である。予約したタクシー三台に分乗して松枝岐に向かう。舟岐川林道から歩きだす。そこから焼沢に入る。さわの状態は草が繁茂している。さらに堰堤に突き当たり、そこを越すのに時間がかかった。なおも沢筋を詰めると、2つ目の堰堤が現れた。堰堤手前の右岸が開けているので、三年生にマネージさせる。すると、はつきりした道が下からあがってきて、少し上で行き止まりになっている。この道は堰堤を作るのに開かれた道のようなだ。2つ目の堰堤は難なく越えられた。その後、沢は幅広くなり見通しが良い。ここで現在地を確認し、まわりの地形の特徴を把握する。進むにしたがって、沢筋が狭く、兩岸が迫って、傾斜が急になる。小さな滝を越すと、露岩が出てくる。現在地マネージをする。この先の沢の状態は、樹林帯となり石に苔がはえて、水流が無くなる。さらに沢を辿って

いくと、自然と湿地帯に導かれる。明るい草地の明大窪地に出た。そこから水流のない沢筋を辿ると駿台田代にでる。14時44分着。雨の中、昼食となる。風が出てきたので天候が変わるようだ。かすかに雲間に、太陽の薄日が射す。田代から鞍部に出て、そこからクビレ田代を目指して下る。展望が利かずヤブの中なので方向を定めて下る。眼下に黄金色した田代が見えた。クビレ田代である。いつの間にか雨が上がり、静寂さが我々を迎えてくれた。16時34分着。オオシラビソ、ツガ等の樹林帯でサイトする。水場あり、薪あり、平坦な場所です。サイト適地である。28日クビレ下田代へ行き、昨年の刈り払い道は、はつきりしていた。サイト地に戻り、時間を決めて刈り払いをして歩きやすくした。緩やかで平らなところへ出る。尾根上に出たら、進む方向を決めて一気に登る。昔のMプレートのブリキ板があった場所に出た。「孫兵衛山」へと印されていた。ここから右側に窪地を見ながら、稜線近くのコースを辿ると倒木も少なく、ヤブも厳しくないところを通過する。ゴキタ沢コースを目指して行くと源頭近くになると泥沼化した湿地となる。源頭地点から沢沿いに進み紫紺の下田代と上田代をピストンする。ゴキタ沢は単調でまわりの風景も変化に乏しい下りである。坦々と下る。実川に近づくと、赤安山の稜線が見えなくなり、赤土のガレが目の前に現れる。1箇所ガレ場があるので慎重に下る。実川林道の出合いは、昨年の

台風で崩れている。今年も台風の影響で変化がある。本来の林道より二十メートルほど上部に道が作られていた。ここからザル滝入口まで5箇所沢の出合がある。沢の出合いは足場が悪いので足場を確保して歩く。ザル滝入口では、ロープで実川に下る。ザル滝の名の由来は、竹で作ったザルを逆にした形に似ているからである。ザル滝の手前は淵になっており、股下まで浸かりながら進む。ザル滝の水量は例年並である。いままでの緊張した気持がほぐれたのか、皆の顔から笑い顔が見えた。入口の戻り、一山越して実川に再び出る。夕闇迫り懐電を照らして歩く。赤倉沢と硫黄沢の出合いでサイトする。18時17分着。夜、台風の影響で雨が降り風も強くなる。明け方はとても風が強く台風が通過したようだ。翌日、硫黄沢を詰める。途中から大間沢に入り、歩きやすくなる。沢を離れて、尾根通しを歩く。樹林帯の中で見通しは利かない。広い尾根では方向を決めて進む。この尾根はヤブの濃いところと薄いところが交互にでてくる。濃い場所は体が跳ね返されるほど密生している。沢の音が聞こえてくると、ヤブが終わり冷たい沢のなかを歩いていくと犬田代に出た。12時24分着。あたりは秋の深まりを感じさせる風情である。犬田代から花沼湿原へは、沢状のところから入り、花沼湿原に方向を合わせて進む。樹林帯で黒岩段と呼ばれている場所で緩やかなところを進む。目の前が開けたような模様になると、もう間近であ

る。霧がかかり幽玄な雰囲気、湿原が現れた。花沼湿原だ！池糖がたくさんあり、湿原の端を歩き樹林帯の中でサイトする。14時16分着。翌日（9月30日）、行程が長いので暗い中4時に出発。一気に登り黒岩三中央峰へ04時58分到着する。東の空が真っ赤に染まり日の出を迎える。南峰の三角点まで刈り払いを行う。黒岩山山頂からの展望は抜群である。会津駒の稜線、燧ヶ岳、至仏山、越後の山々、上州武尊山、奥白根山、男体山等、日光連山、塩原の山々、田代山、帝釈山、台倉高山への稜線がくっきりと見渡せる。ここから進むコースは分水嶺の尾根で男体山の方角を目指して下る。まずは奥鬼怒林道に出るように下る。林道に出たから分水嶺へのコースをマネージする。樹林帯で下草は笹藪がある。方向を決めて尾根を忠実に下る。竹藪をこいで倒木を根気よく一つ一つ越えてゆく。鞍部の所が分水嶺で歴代のプレートが木に打ち付けてある。見通しは良い。ここからは尾根をはずさず、方向が変わるところでは周りの地形を確認してから下る。今年には明るいうちに、コザ池沢に出ることができた。沢を何回か渡渉を繰り返して、遊歩道に15時58分到着。ここから鬼怒川を渡渉する。川原に降りて対岸の沢状のところを目指していく。あすなろの疎林帯の急坂を登りつめる。下草がなく足元がやわらかく足場を確保して登る。スーパール林道に出る。手白沢橋から明大新道を通って奥鬼怒山荘に18時09分到着。着く。確かな手ごたえを

感じたリーダー養成Wであった。自分自身を磨き、目標に向かって一つ一つ確実に実践していく。それがみんなの信頼を得ることにつながる。

平成4年9月20日〜30日、今井範夫主将で第37回リーダー養成Wが行われた。前半が男鹿山塊で後半が南会津である。三年生が23名（内女子4名）参加した。今年は日本はバブル経済の崩壊により不況となり、世界はソ連邦の解体、東西ドイツの融合、ヨーロッパにおける統合など、全世界の経済も不況下にありました。スペインのバルセロナにおいてのオリンピックは日本のスポーツ界に明るい話題でメダル獲得数は前回を上回った。さて、私はいつもリーダー養成Wに行く前に必ず山に行くことにしています。今夏は南アルプスの聖岳・光岳の縦走コースを計画しました。自分自身を鍛えることで体力を維持しました。いよいよ、リーダー養成Wが始まる。私の仕事の都合で、針生山荘で合流ができず、民宿「きのこや」に宿泊して翌日、実川林道のザル滝入り口で会う予定である。9月27日、七入橋のたもとから小雨の中、実川林道を歩きはじめる。ヤビツ沢橋からは新実川林道になり、実川から離れて林道が続いている。実川に下る道は整地されて、堰堤が作られている。雨が強くなり、なおも林道を歩く。前方に人の動く様子が見えてきた。近づくにつれて三年生達と分かった。予想外の場所で合流できた。幅の広い新実川林道が終わった所で

コースマネージをする。すぐ下に旧実川林道を見つめる。山道を5分歩くとゴキタ沢に出合い、沢の出合いを注意しながら進む。やがてザル滝入り口の所で実川に下りる。ロープを使用してザックを下ろす。今年は水量が少ない。実川を遡行する。へつりの場所も沢床が見えて足場を確保できた。水は冷たいがザル滝の流れが緩やかだ。11時55分着。休憩をとり滝を眺める。入口の戻り、一山越して、硫黄沢と赤倉沢の出合いへ向かう。下りに注意を要する。出合いにてサイトする。下草を刈り整地してテントを張る。13時20分着。水は赤倉沢から汲む。夜中に雪が降ったらしくテントがぐわぐわしている。早朝、赤倉沢を詰める。比較的歩きやすい。目の前が開けてくると沢が分岐して右股を遡行していくと滝が現れて、右岸にある針金とロープを使用して滝の上にする。この先は両岸が狭く沢の中を股まで浸かりながら歩く。また滝が出てきて左岸についている針金を使い、補助にロープを使用する。難所を抜けると沢は平らになり歩きやすくなる。ここでザックを置いて赤倉滝を見に行く。戻ってきて、小さな沢筋を詰める。それから尾根上にする。ツガ、オオヒラビソの太木がある。途中、南会津の山々、会津駒、燧ヶ岳が望まれる。長須ヶ玉山から孫兵衛山の稜線に冠雪が見られる。昨夜降った雪でうっすらと化粧している。ヤブもあるが比較的歩きやすい尾根である。やがて冠雪している黒岩山が望まれた。シラビソの幼林

帯をかき分けて実川源頭に下りる。兩岸は急である。そこから樹林帯の中を歩き、南の方向を目指す。目の前が開けてくると、そこには花沼湿原である。今年は池の横にでた。静寂さを保つ湿原に冠雪の黒岩山がすばらしい。いつもの場所です。15時40分着。翌日のコースは長い日程なので、明日のコースリーダーがコースマネージを行い、目印をつけた。翌日は2時起床で03時47分出發。暗い中、小さな沢沿いに進み、踏み跡を辿りひたすら登る。周りが明るくなりだした頃、黒岩山の中央峰に近づく。例年どおり黒岩山の稜線を刈り払って進む。黒岩山頂は雲のために周囲の山々は望めない。06時19分着。山頂から奥鬼怒林道への下りである。下りる地点をはっきりさせ、下るときは全員に方角を確認させて後続の人に方向を見せよう。林道へ出たところで全員の気持が高まる。林道を気持ちよく進む。そして林道から分水嶺に向けて樹林帯の竹やぶの中を進むので、現在地マネージとコースマネージをして進むべきコースを確認する。幅広い尾根なので周りの地形に気をつけて下る。支尾根に入り沢筋に下り始めて、間違いに気が付き右側に尾根が確認できた。少し登り返して尾根に取り付く。尾根上を歩くと竹やぶになり、目の前が開けて鞍部に出る。そこが分水嶺で黒沢とコザ池沢を分けている場所である。大木に打ち付けてある歴代のMWVプレートが印象に残る。ここで昼食となる。08時52分着。分水嶺から先

は竹やぶと倒木をいかに乗り越えるか。尾根をはずさずに進むことができるかにより時間のかかり具合が変わってくる。今回は上手にコースを進むことができてコザ池沢に16時に到着する。コザ池沢を何回か徒渉を繰り返して、滝の手前で右岸を高巻いて遊歩道にでた。遊歩道から欄干の終わりの場所から川原へ降りる。鬼怒川を徒渉して沢状のところを登り、アスナロの疎林を急登する。足元がやわらかいので足場を確保しながら登る。いつの間にかあたりが暗くなり、登りきるとスーパールン道にでた。17時52分着。手白沢橋から奥鬼怒山荘へ向かう。山荘で監督、四年生が拍手して迎えてくれた。19時10分着。夜は検討会で反省と今後の活動を話し合う。翌日、山荘の清掃と道作りをして、無事にリーダー養成Wを終了した。

空色山の会 済州島漢拏山

BN 705 杉山 裕

5月9日から12日まで空色山の会200回記念として、OB・OG計9名で韓国 済州島・漢拏山^{ハルラサン}に行ってきました。朝、成田から直行便が出ていて2時間強で済州空港に着き、専用ガイド付き貸し切りバスでの4日間が始まりました。済州島は日本との時差はありませんが、東京より経度が14度弱西に位置するため1時間近く日出・日没が遅くなります。昼食は市内でアワビ参鶏湯、午後は小雨をつい

て島内観光。龍頭岩・狹才窟・双龍窟等火山島特有の世界遺産を含む奇岩・大規模な溶岩洞窟はあちこちにあり毎日見物しました。「洞窟」は韓国語が日本語で発音すると、語中にくる「K音」が濁音化して「G音」になり「どくぐつ」と発音し、それが我々には「どぶつ」に聞こえて動物園に行くのかなあとみんな首をひねっていました。南海岸西帰浦にある葉泉寺は朝鮮王朝初期曹溪宗の仏教寺院で建物・庭も立派なものでした。帰途郷土料理の夕食をとつてから、済州市のオリエ



ンタルホテルに入り、疲れたからその日は早めに休みました。

10日は漢拏山登山の予定でしたが、天気がよくないので翌日と入替え終日観光となりました。朝食にアワビたっぷりの粥を食べてから、まず北海岸の三姓穴に行きアニメ等で済州島の建国神話を学び、村々の守護神としてあちこちに置かれ、今は島のシンボルとして土産物になっている火山岩の玄武岩で作られたトルハルバン（石爺さん）を品定め。東へ向い世界遺産の萬丈窟洞窟探検。その後島中部の城邑民族村へ。昔の集落をそのまま保存して公開していて、女性案内人が暮しや風俗を面白おかしく説明してくれ、見事な説明に最後は高価な「冬虫夏草」「五味子茶」をウォン・円・カードまで使って喜んで買いました。後日の〇氏の談によると「冬虫夏草」服用程なく血圧が下がり、体重も減ったと大喜び、まだ変化無いという人も。1年後皆さん体質改善されているでしょうか？夜は黒豚カルビに焼酎「漢拏山」を堪能。

11日はいよいよ登山組6名は早起きして漢拏山へ。残り3名はゆつくりと1日観光。漢拏山は韓国最高峰1950Mですが、山頂火口壁崩落のため現在は東稜1932M地点までしかいけません。登山口は東側城板岳海拔750M、下山は北側観音寺620Mで距離約19KM。10時間の日帰りコース。韓国の山は日帰りが原則で、宿泊できる山小屋はあまりありません。そのため登山者の装備は軽装で多くは勢

いに任せてペースはあまり考えないスタイル。本土からの学生など若者がほとんどで中高年はまず見かけません。マナーは未だでベクトル等手に持って飲み終わったらポイの人も多く、10年前の〇B会雪岳山遠征同様ゴミを拾いながらの登山となりました。登山道の整備は行き届いていて全コース石畳・木道・階段、200M毎に設置された道標で残り距離・海拔高度も表示され、日本語表記もされていてとてもわかりやすいです。コース以外への立入りもしっかり規制されていてこれはみんな守っていました。06時15分、我々は現地ガイドについて着実な登山開始。1500M地点のチンダルレパツ（杜鵑花林避難所つつじ畑）の山小屋までは緩やかな登りが続き、09時50分着。ここでカップヌードルを食べるのが定番で並んでおいしく頂きました。名前通りつつじが盛りで、少し登って見下ろすと漢拏山の1500Mの山腹を取り巻いて一面のピンクの絨毯は見事でした。ここから岩場の急登になり、11時40分頂上到着昼食。1日待った甲斐があつて遠望は利かないながら晴れ渡り暑くもなく気持ち良い登りでした。観音寺への下りは登りと打って変わって岩場の急降下が続き、荒々しい山肌を振り返りながらで登りに使わないで良かったなという感じでした。観音寺駐車場16時20分着早速ビールで乾杯、順調な楽しい登山でした。

最終日12日は3つ目の世界遺産東海岸の海底噴火でできた城山日出峰約90Mに9人全員

で登山、ずっと階段のけっこな登りで人気スポットのため行列状態でした。下の草原では何人かは済州島馬の乗馬体験も。

最近の日韓関係のもつれで日本の観光客は極端に少なかったですが、人々の対日感情は変わりません。済州島は韓国で唯一ミカンのとれる温暖な地で、また三多「石と風と女が多い」そして三無「泥棒・乞食・門（必要ない）」といわれ、男は働かなくていいとても暮し易い所といわれてきました。今はそうでもないでしょうが。楽しい4日間があつという間に過ぎ去り、ガイドの金さんの見送りを受け後ろ髪引かれる思いで（ありませんが）飛行機に乗りました。

2013情断会スノーW

平成25年3月2日、3日

BN 788 原田 博文

今年のスノーワンデルングの企画は、2011年6月の白砂山、2012年6月の会津駒ヶ岳と、このところ現役時代を回顧している小生の当番となり、迷うことなく草津に決定。いいお湯に浸かって日本百名山の草津白根山にスノーシューで登ろうと言う企画である。メンバーはGO、M、KO、Hの4名。常連のTは家事都合により欠席。

3月2日（土）

関越道のスキー渋滞は避けたいということ

で、集合は高崎駅。埼玉・上尾市在住のHが一般道をひた走り、高崎駅で他のメンバーをお出迎えである。さすがに高崎までの新幹線内でビールを飲んだ者はおらず、予定通り7時30分に高崎駅を出発し早春の上州路を(二ユーイヤー駅伝みたい)一路草津に向かう。途中若干の渋滞はあったものの、吾妻渓谷に沿って走っていた道路はハツ場ダム関連工事のため、立派なバイパスになっていて、ほぼ予定通りに草津に到着した。が、ロープウェイの山麓駅に向かう道路は天狗ゲレンデ脇のゲートが閉まっていて通行止め。強風のためロープウェイが運休だそう。後で知ったことだが、この日は全国的に大荒れの天気、北海道では死者も出るほどであった。

しかたなく本来は翌日のコースであった、常布の滝展望台コースに予定変更し、駐車場で身支度。コースのほとんどが林道で、雪がしまっているため軽アイゼンで出発である。今回のためにスノーシューを新調したMは不満そうであるが、久々の雪の感触に心は躍る。ひたすら林道を歩いて、芳ヶ平から温泉街に下る道と交わった少し先が常布の滝展望台である。谷沢川対岸の岩壁を流れ落ちる常布の滝が見える。芳ヶ平から温泉街に下る道は正部員養成の最終日、暗くなった道をカイドンの明かりを頼りに下ったはずだが、なかなか記憶はよみがえらない。また、小生はスキーで、やはりこのコースをたどったことがあるはずだが、記憶はおぼろげである。

強風のため、昼食もそこに引き上げ、今夜の宿「ホテル櫻井」に車を置いて、懐かしい温泉街の散策に出掛ける。小生が現役時代の冬にアルバイトをした「山田スポーツ」は当時と変わらず「山田荘」の看板を掲げて民宿を営んでいた。バスターミナルから湯畑に下る道沿いは当時とあまり変わらないように感じられたが観光客がやたら多かった。湯畑の角のパチンコ屋はまだあったが「フランス座」は無くなったようだ。Mの「昔も踊り子はババアばかりだったからな」との言葉に妙に納得。湯畑を一回りして、スキーゾーンに草津に籠っていたときに先輩に連れて来てもらったスナック「はじっこ」を捜すが、これも見当たらない。また、当時の小屋係Mがよく惣菜を買った「うさぎ屋」は温泉街手前の道の駅近くに引越して現在は蕎麦屋だそうである。

一通り観光を済ませて、早めにホテルにチェックイン。温泉に浸かって、酒を飲み、うまい飯をたらふく食べ、外の風の音を気にしながらも早々に就寝。

3月3日(日)

目が覚めて露天風呂に行くと空は青空だが、山には雲がかかっている。出発の準備をして、念のためにロープウェイの駅に電話したところ、強風のため運休で、運転開始の見込みは立っていないとの事。とりあえず山麓駅まで思ったが、今日もゲートは閉まっている。他の目的地を探そうと言うことで、Uターン



したものの諦めきれずにGOがもう一度電話したところ、運転を開始出来そうとのこと。再びゲートに向かうと、既に情報を聞きつけた車が待つており我々は2番目となった。程なくして、ゲートが開き無事に山麓駅の駐車場へ。レストハウスでしばらく待っているうちにロープウェイも動き出し、あつという間に山頂駅に到着。スノーシューを着けていよ

いよ出発である。Mの新しいスノーシューは体の硬いMでも装着がスムーズだ。

山頂駅から逢ノ峰の西側を巻いていく道に先行者はなく、途中、氷結した弓池の上をショートカットしてレストハウスに到着。強風のため休憩もそこそこに湯釜を目指す。風は強いが、徐々に青空が拡がってくる。エメラルドグリーンの湯釜をのぞいたあと百名山の白根山に登頂。山頂からは榛名山、赤城山を前景に関東平野が望める。また、西を望めば雲の切れ間に北アルプスの山も見えたが山座同定には至らなかった。

帰りはレストハウスまで戻り、来た道を帰る。帰りのロープウェイから見た振子沢は我々の現役時代のように、いわゆるハーフパイプ形ではなく、両端が削り取られ、平に整備されているように見えた。

今回のスノーワンデルングは、コースとしては若干物足りない気もしたが、思いつきり昔を懐かしめた楽しいワンデルングであった。さあ、来年はどこにしよう。

五三会同期会（東京ST編）

BN 826 村木 隆

トレンドに乗っかるのは、信念に反する。スマホだ？冗談ではない……私はフオーマで十分だ。ドコモが許すのならムーバだって構わなかったのに。東京デイズニールランドだって行ったことがないのに、東京スカイツリーだ？冗談じゃない……

待てよ……オレの周りで、スカイツリーに登ったという話は聞いたことがない。今回の同期会の幹事が大倉と言うことは、スケジュールに「それ」が組み込まれるのは間違いない。水先案内人付きで、てっぺんまで連れてってくれるんなら、乗っからない手はないだろう。ふっ……これで職場のスカイツリー一番乗りは……オレだ。私の信念とはこの程度である。

とまれ、こんな長い能書きの末に、私の久々の同期会参加が決まったのである。

予定日は、一月二十六日と二十七日。この両日、北日本は、「この冬一番の寒波到来」と、天気予報は厳重警戒を呼び掛けていた。

当日：暖かい。東京は、春そのものである。リバティタワー前に集合。到着すると猪狩と林が既に到着していた。猪狩・林とも、基本的になんでも変わっておらず、見飽きた奴にまた会ったという感じで、特にこれといった感慨はない。

そうこうしているうちに、一人また一人と見飽きた顔が集まり出した。ほぼ揃ったところで、学生時代の発想同様、じゃあ昼メシでも食うかと云うことになり、リバティタワー上階の学食へ行く。♡ほほ♡さすが「おしゃれ」なイメージ大学の学食は違う。「おしゃれ」にエレベーターで学食に入り、野菜サラダなどといった、やたら「おしゃれ」で豊富なメニューの中から、これまた「おしゃれ」なナ

ンチャラいう料理をみなさん選んでいる。私は、学食では「カネに糸目をつけなくてもいい日」はカツカレーと、昔から決まっておる。♪「ご飯だ、ご飯だあ、さあ食べよお……♪」それにしても、眺めがいい。一等三角点を埋め込みたい雰囲気である。

さて、腹ごしらえができたところで、現在の部室に行き、ドアをノックする。中には、可愛らしい女子学生がおり、あきらかに警戒して中に入れようかどうか逡巡している。ここで、女性の警戒心を取り除くことにかけては天才的な猪狩氏が登場、顔パスでオジサン・オバサンも入室オッケー。きつと部室も「おしゃれ」なんだろうなあと思うながら入ったら……ここでは、しっかりと伝統が受け継がれており、実に汚い。なんと我々が四十年近く前に使用した、木製のロッカーがいまだに活躍している。もつとも、ロッカーの扉がことごとく壊れており、ロッカーの体をなしていない。鍵のついていない、ただの仕切りの付いた物入れ……セキユリティ度ゼロである。それにしても、四十年以上前のワンデルング記録がペーパーで保存してあるのは驚き。オービーの一人としては懐かしいのだが、記録としての価値はほとんどないよね。現役さんにとっては、捨てるに捨てられない厄介者なんだろうなあ。

さて、いよいよ東京スカイツリーへと思いきや……猪狩が「せつかくの同期会なので「薫風」の発送作業を体験しては？」との提案を諸

先輩から受けた」とのこと。たまたま本日ここで、諸先輩方が作業をしており、五三会メンバーに対し、温かいご提案を頂いたようだ。もちろんこの提案、遠慮することが認められているはずもない。「有無を言わせぬ」美しい伝統は、いまだ健在なのだ(泣)

この発送作業、中腰でかなりシンドイ。今回は名簿も同時発送とのことで、流れ作業で黙々と郵便物を完成させていく。若かりし時代の、会社の「人海戦術による仕事」そのものである。こんなに毎回、諸先輩がご苦労されて、我々の手元に薫風が送られてくるのです。みなさん年会費は、毎年確実に払い込みませう。

さて、ホントにいよいよ東京スカイツリーへのアプローチである。押上の駅を出て、さて、スカイツリーはどこだ?と辺りを見回すが、それらしきものがない。あれ、意外と離れたトコにあるのかな?と、後ろを見上げると…まさきに「ゴジラ」を連想してしまった。まるでゴジラが東京の街を睥睨しているかようである。これは、スゴイ!想像を遙かに超える迫力である。

入場券を買うための列に並ぶための整理券(ようわからん)を、予め大倉氏と山本氏が、これまた並んで手に入れてくれていたので、夕方四時に列に加わればいいとのこと。これは、助かった。このチケットがなければ、並ぶことに慣れていない田舎モンは、敵前逃亡必至である。

並んで待つこと約一時間。やゝつつと待望のエレベーター乗り込みである。五十年代前、小学校に入りたての頃、東京の祖父に連れられて、初めて東京タワーに上った時の記憶が鮮やかに蘇る。「三丁目の夕日」の世界である。しかしいま、目の前にある眺望はそれとは明らかに違う。なんだこれは?パワーアップし過ぎ……

まもなく陽が落ちて、東京の夜景が広がる。自然の眺めとはまた違った美しさがある。ヘッドライトが蟻ンコの様に動き回る。この大都会の営みが、日本をあらゆる意味で支えている。お疲れ様です。感謝、謝謝。

瞠目のうちに、巨大なペンライトと化したスカイツリーを後にし、今晚のメインイベントであるロシア料理店「ベルーガ」に到着。入店すると、既に、本日の特別ゲストである横手一男先輩がお待ちであった。相変わらず表情が優しい……。横手先輩を加え、総勢十五名の晩餐である。さすがに大人になった諸兄から「♪さあかずきを持って……さあ卓を叩け:♪」という品のない声は聞かれなかったが、アルコールが入れば一様に学生時代に逆戻りをする。それぞれが社会に出て三十数年、職場や家庭での悩みを持っているはずなのに、今宵は学生帰り……。

翌朝、宿泊先からお台場に向かいつつ、三々五々と再会を誓い合いながらの別れとなった。次回同窓会は伊勢の辺りになるらしい。幹事さんのおかげで、いい同窓会でした。改めて



大倉氏・猪狩氏に五三会一同になり代わり、お礼申し上げます。とつても楽しかったです。また、横手先輩も、お忙しい中をご参加いただきありがとうございます。また、機会がありましたら、よろしくお願いいたします。

山久会「秋田駒&八甲田」の旅

BN 532 鈴木 正彦

2013年6月14日(金) 午前10時45分
なため会有志10名と大内・鈴木康弘両OB

の計12名はレンタカー2台に分乗し、秋田駒ヶ岳を目指した。右に岩手山を望みながら田沢湖線沿いの道を田沢湖へ。湖畔のレストランで昼食後、秋田駒ヶ岳八号目に向かう。八号目の駐車場は結構混んでいる。

午後1時40分、身支度を整え全員で阿弥陀池を目指す。登山道の両脇には、コイワカガミ、シヨウジョウバカマ、ツマトリソウ、ミヤマダイコンソウ等の高山植物が咲き乱れる。雪渓を2、3箇所渡り木馬道が現れるとチングルマの大群落が現れる。感動的な美しさだ。天国への道とはまさにこのことだろう。小一時間で阿弥陀池へ到着。避難小屋の前で、皆がコーヒータムを取っている間に自分は男女岳頂上を目指す。空身なので、約10分まで到着。ビデオカメラで証拠画像を撮影し、すぐ下山。体力の衰えで踏ん張りが効かず、下りも10分かかる。

今日の宿は乳頭温泉郷の中の秘湯「鶴の湯」だ。乳白色で硫黄の匂い。草津とよく似た温泉で、大きな露天風呂が売れた。鶴の湯の名前の由来は地元元狩師・勘助が猟の際に傷ついた鶴が湯で傷を癒すのを見つけた事がある。そのまま鶴の湯の名に残ったのだという。古くは二代目秋田藩主・佐竹義隆公が、湯治に訪れたといわれている。

6月15日(土)

午前八時、小雨のバラつく中を出発。国道341号線を北へ向かう。玉川ダム(宝仙湖)、玉川温泉、赤川温泉を通過して鹿角八幡平IC

から東北自動車道に入る。今回の運転手も超ベテランの小島君をはじめ佐藤昭・三嶋の三名なのでまったく心配していない。十和田・碓ヶ関・大鰐弘前の各ICを過ぎ、黒石ICで高速道路を下りる。天気は余り良くないが、本日合流の池田君と落ち合うため八甲田ロープウェイ乗り場に向かう。11時30分、濃いガスの中、新青森からバスで来た池田君と無事合流。今日はロープウェイの山頂公園駅周辺も深い霧の中のことと、急遽予定を変更。私の知人が黒石に居るので連絡を取ったところ、今日なら身体が空いているので黒石市内を案内できるとのこと。また、黒石市内へ取って返す。

12時30分、私の知人T氏と落ち合い、黒石市内を案内していただく。「こみせ通り」「高橋家」「りんご試験場」「津軽こけし館」等々、見どころが一杯だ。「津軽黒石こみせ駅」では皆、思い思いにお土産を買い込む。

遅めの昼食後、今日の宿・酸ヶ湯温泉に向かう。ここの「ヒバ千人風呂」は初めて見る者を驚かす。160畳もの浴室には、熱の湯・冷の湯・四分六分の湯・湯滝など5つの浴槽がある。勿論混浴だ。

6月16日(日)

いよいよ八甲田に上がる日だ。ロープウェイの山頂公園駅約1300mに降り立つと、曇ってはいるが雨は降っていない。ここで本日の宿(大内先輩の知人の別荘)での準備のため、大内・井出・三嶋・岸の4名が先

発隊となり、本隊とは別行動となる。本隊8名は上毛無岱を目指す。木馬道は所々雪に覆われて滑りやすいので、一同軽アイゼンを装



着する。この辺は豪雪地帯で、豊富な雪解け水により湿原や沼ができるとのこと。振り返ると田茂^{たも}泡^う岳^{たけ}1324m直下の雪溪に数人の人影が見える。多分先発隊の連中だろう。こちらが手を振ると向こうも手を振って応える。ルートを南にとる。左手には北八甲田連峰の赤倉岳1548m、井戸岳1452m、八甲田大岳1584mが雲の切れ間に見え隠れしている。残雪の中のルートファインディングは結構難しい。雪の急な斜面を登り、藪を漕いだ出口が酸ヶ湯方面と八甲田大岳との分岐点で上毛無岱の入口だった。GPSのお蔭だ。緩い傾斜を下って行くと、まもなく毛無岱中心部で、木製デッキの休憩所に着く。周りにはチングルマや水芭蕉が咲いている。ここからは木の階段を一気に下り、下毛無岱へ着く。水芭蕉の大群落が目前に迫る。しばし撮影タイム。再度、樹林帯に入りルートファインディング。酸ヶ湯と城ヶ倉温泉への分岐を探すのに一苦労。無事、酸ヶ湯温泉にたどり着き、温泉で汗を流し、昼食は蕎麦で一同舌鼓を打つ。

これより、食料の買い付けをしている先発隊の後を追う。

五所川原市内で先発隊と無事合流。立佞武多館で本物の立佞武多に度肝を抜かれる。高さ23mで物凄い迫力だ。是非8月に見に来たい。大内先輩の知人で、五所川原の顔役の山口さんの別荘を目指す。津軽半島の北西部、磯松での夕日を眺めるために先を急ぐ。目の

前の日本海に沈む大きな夕日を見たとき、みんな感動していた。この後の大宴会の様子はご想像にお任せする。

6月17日(月)

今回の旅の最終日は、斜陽館から始まる。太宰治の生家は当時豪邸だった。津軽半島で生まれ育った太宰は「津軽平野のほぼ中央に位し、人口五、六千の、これという特徴もないが、どこやら都会風にちよつと気取った町である」(津軽より)と言っている。

この後、三内丸山遺跡で縄文時代の生活に懐かしさを覚え、新青森から車中の人となった。

山久会の旅に同行して

BN 299 大内 善一

雪溪やアイゼンの紐 固く締め

雪溪や 山毛櫟の根本は なべて斑に

春蟬や ゴンドラ揺らす ごと鳴けり

駒草や 籠めし山霊 秘めて咲く

岩魚焼く 武骨亭主の 捌きよし

河鹿聞く 深山本陣 野天の湯

夕茜 土用蛭の 舟戻る

岩木山 晴れて土用の 蛭採り

奥座敷 亭主自慢の 多羅婆蟹

走り梅雨 煉瓦の塀の 斜陽館

計報

BN 244 川田正雄OBが平成25年1月27日に逝去されました。

BN 342 渡辺 陸OBが平成25年2月6日に逝去されました。

BN 709 上野陽一OBが平成25年3月28日に逝去されました。

BN 975 務台優吉OBが平成25年6月2日に逝去されました。

BN 1268 久野隆裕OBが平成25年6月2日に逝去されました。

BN 786 中山克己OBが平成25年6月22日に逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

渡辺 陸君逝く

BN 197 小林 碧郎

わが心 冷ゆるばかりに 友逝けり

■ご案内

住所変更や慶弔事等、なため会々員の動静については、左記の総務部担当者まで連絡願います。

総務部 松井 法一(974)

住所 〒120-0043 東京都足立区千住宮元町13-2

電話 03-5829-8077

携帯 090-8649-0849

メール shu-ken@midbiglobe.ne.jp

平成24年度 明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 卒業生 歓送迎会

■日 時 平成25年3月20(水) 17時00分～19時30分 ■場 所 リバティタワー岸本・宮城ホール

■式次第（敬称略）

17:00 開 会	司会進行 日暮 浩美 (915)
部長先生挨拶	部 長 長峰 章 (1000)
なため会会長挨拶	会 長 天野 俣明 (477)
監督挨拶	監 督 諏訪本充弘 (751)
送 辞	主 将 南 隼人
答 辞	前主将 安田 光輝
バックル授与	会 長 天野 俣明 (477)
17:40 乾 杯	幹 事 長 小田野義之 (775)
祝 宴	
写真撮影	
校歌斉唱	主 将 南 隼人
19:30 閉 会	

■出席者：84名

●卒業生：8名（うち欠席1名）

1264 安田 光輝	1265 岩田 卓也	1266 森田 莉帆	1267 山脇 英明	1268 久野 隆裕	1269 境 健成
1270 藤原悠一郎	1271 餅原 美里	(欠 席)			

●なため会会員：43名

181 新村 貞男	299 大内 善一	339 足立 康弘	468 鹿嶋信太郎	477 天野 俣明	487 鈴木 康弘
489 野村 司	494 木島 敏夫	495 深田 裕弘	501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	525 志村 和久
527 池田 陽一	532 鈴木 正彦	558 奥倉 勇一	601 池上 勝彦	610 石田 正	625 菅野 隆夫
626 和田 満	661 大賀 徹雄	683 横手 一男	705 杉山 裕	717 住田 孔一	728 横尾 廣志
751 諏訪本充弘	764 高橋 寿子	775 小田野義之	788 原田 博文	792 柳川 俊泰	795 濱田 稔
817 和賀井英雄	835 猪狩 稔	915 日暮 浩美	982 肥田 耕一	984 佐藤 公彦	995 小野寺洋介
1000 長峰 章	1005 原 宏	1065 斉藤 宏	1174 尾崎 剛史	1242 片貝 友哉	1250 鹿村 亮介
2120 鈴木 元典					

●現役：34名

主将 南 隼人	主務 浜口小百合	4年 金子 大修	4年 坂巻 裕太	4年 佐藤 岳	4年 西村 怜
4年 安井 美穂	4年 渡邊 弘樹	3年 荒澤 裕司	3年 内山 嘉穂	3年 勝田 三月	3年 上出 稜
3年 鴨志田岳大	3年 榮 竜彦	3年 佐藤 隼人	3年 鈴木 優花	3年 鈴木 竜一	3年 諏訪部貴亮
3年 高見 健太	3年 田口 和昌	3年 中沢 公大	3年 馬場 大志	3年 馬場 隆彰	3年 眞野 祐輔
3年 山崎 友也	3年 渡辺 千佳	2年 池田 里美	2年 宇津木俊亮	2年 土井 崇弘	2年 本行 優生
2年 前川 晃慶	2年 舩田献太郎	2年 増田 拓也	2年 望月健太郎		



明治大学体育会

ワンダーフォーゲル部なため会

平成二十四年度 幹事会報告

五月二十八日(火) 十八時〇〇分

～十八時三〇分

於…リビテイタワー 23F 宮城ホール

一、審議事項

(一) 平成二十四年度事業報告 小田野幹事長報告

・原案通り承認されました。

(二) 平成二十四年度決算報告 柳川財務部長報告

・原案通り承認されました。

(四) 平成二十四年度監査報告 大賀監事報告

・原案通り承認されました。

(四) 平成二十五年度組織案 小田野幹事長説明

・原案通り承認されました。

(五) 平成二十五年度事業計画案 小田野幹事長説明

・原案通り承認されました。

(六) 平成二十五年度予算案

安部事業運営部副部長説明

・原案通り承認されました。

(七) 平成二十五年度奥鬼怒山荘50周年事業進捗

安部実行委員会事務局報告

二、報告事項

・現役の活動状況報告

諏訪本監督報告

・各委員会報告

なため会 組織 (平成25年4月～平成26年3月)

■役員	会長	天野 倅明(477)			
	副会長	足立 康弘(339)	内田 吉成(392)	紀伊辰之助(423)	
■部・専門委員会	幹事長	鹿嶋信太郎(468)	鈴木 正彦(532)		
	監事	小田野義之(775)	副幹事長	日暮 浩美(915)	
	駿台体育会理事	前田 芳弘(501)	大賀 徹雄(661)		
		志村 和久(525)	奥倉 勇一(558)		
	財務部	(部長)柳川 俊泰(792)	(副)金井 良博(842)		
	総務部	(部長)松本 栄作(566)	(副)小田野義之(775)	(副)原田 博文(788)	
		(副)日暮 浩美(915)	(副)松井 法一(974)	上原 誠(1115)	
	広報推進部	(部長)井上 稔也(879)	(副)加藤 章一(845)	鈴木 康弘(487)	
		一色 雅男(570)	池上 勝彦(601)	石井 克太(614)	
		猪狩 稔(835)	日暮 浩美(915)		
	企画振興部	(部長)大賀 徹雄(661)	(副)横尾 廣志(728)	(副)井上 堅一(1064)	
		奥倉 勇一(558)	濱田 稔(795)	丸山 貞二(859)	
	山小屋管理部	(部長)杉山 裕(705)	(副)植木 進(846)	(副)唐川 拓三(850)	
		小田野義之(775)	山口 直紀(1017)		
	情報管理部	(部長)住田 孔一(717)	(副)和賀井英雄(817)	猪狩 稔(835)	
		安部 好洋(1006)			
	事業運営部	(部長)猪狩 稔(835)	(副)安部 好洋(1006)		

■ブロック世話人

◎は正、○は副

第1	◎飯村 朋圀(455)	○中山 光史(395)	○内田 吉成(392)	○篠崎 徳量(241)
(S14-37卒)	○吉田 修(345)	○紀伊辰之助(423)	○鹿嶋信太郎(468)	
第2	◎池田 陽一(527)	○前田 芳弘(501)	○松本 栄作(566)	○秋元 道別(594)
(S38-43卒)	○大洞 聡(597)	○和田 満(627)		
第3	◎杉山 裕(705)	○横尾 廣志(728)	○野島 一雄(676)	○住田 孔一(717)
(S44-51卒)	○柳川 俊泰(792)			
第4	◎丸山 貞二(859)	○唐川 拓三(850)	○加藤 章一(845)	○遠山 高広(858)
(S52-58卒)	○井上 稔也(879)			
第5	◎松井 法一(974)	○池本 直人(956)	○成田 幸治(976)	○井上 堅一(1064)
(S59-H5卒)	○大村 研(1086)	○上原 誠(1115)		
第6	◎中村 央(1156)	○中村 宏之(1196)	○藤代 達也(1202)	
(H6-23卒)				

■相談役	新村 貞男(181)	田中與一郎(186)	小林 碧(197)	和田 有弘(237)
	篠崎 徳量(241)	大内 善一(299)	西村 幸一(313)	吉田 修(345)
■参与	奥倉 勇一(558)	横手 一男(683)	濱田 稔(795)	
	杉浦 忠夫(600)	坂本 清(700)	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)
■顧問	長峰 章(1000)			
	諏訪本充弘(751)			
■監督	和賀井英雄(817)	井上 堅一(1064)	尾崎 剛史(1174)	杉山 文啓(1226)
■コーチ				

平成24年度 なため会決算報告
(自24.4.1 至25.3.31) 財 務 部

1. 会計報告

●一般会計		
収入の部	予 算 額	決 算 額
前年度繰越金	5,862,749	5,862,749
なため会費	1,500,000	1,509,000
利息収入	0	1,125
諸収入	110,000	80,169
合 計	7,472,749	7,453,043
支出の部		
【活動費】		
(総務部)		
会議案内通信費	105,000	72,107
薫風運送費	160,000	164,462
慶弔費	100,000	80,988
事務用品費	10,000	3,140
名刺作成費	5,000	0
明大スポーツ新聞購入費	20,000	11,990
住所不明調査費	5,000	0
(財務部)		
会費集金手数料	60,000	47,170
(広報推進部)		
薫風制作費	220,000	127,100
(企画振興部)		
なため会ワンデルング費	30,000	600
(山小屋管理部)		
山荘備品消費	40,000	33,456
ワーク参加者補助費	40,000	45,510
(情報管理部)		
ホームページ維持管理費	14,000	26,590
(事業運営部)		
会場使用料	100,000	105,840
【補助費】		
現役懇親会参加補助費	100,000	60,000
現役テント購入補助費	90,000	0
現役なため会ワンデルング参加補助費	70,000	0
コーチ助成金	150,000	150,000
【渉外費】		
駿台体育会費	110,000	100,000
歓送迎会御祝金	30,000	30,000
監督他部交流費	20,000	20,000
【その他費用】		
バックル製作費	300,000	315,420
お見舞金	0	60,000
会員名簿製作費	250,000	193,574
【予備費】		
	100,000	0
支出合計	2,129,000	1,647,947
収支差額	5,343,749	5,805,096
会費内訳		
年会費	3,000	3,000
口数	500	503
合計	1,500,000	1,509,000

2. 監査報告

次年度繰越金	5,343,749	5,805,096
OB基金	4,631,000	4,831,000
東日本大震災義援金前年度繰越金	252,160	252,160
総 資 産	10,226,909	10,888,256
●なため会総資産		
普通預金		6,253,293
定額貯金		4,631,000
現 金		3,963
合 計		10,888,256

上記の通り報告致します。 財務部 柳川俊泰 (792)
金井良博 (842)

平成24年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

監 事 前田芳弘 (501) 大賀徹雄 (661)

平成24年度事業報告

1 重点目標

- 1 会員サービスの向上
- 2 現役交流の推進
- 3 財政健全化の推進 (会費納入の強化)

2 活動報告

- 1 H24・4・10(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 2 H24・4・18(水) 2011年度会計監査 (アミ)
- 3 H24・4・24(火) 駿台体育会理事会
(大学会館3F第1・2会議室)
- 4 H24・5・8(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 5 H24・5・15(火) 幹事会・総会 (アカデミーコモン)
- 6 H24・5・26(土) 第42回なため会W (二十六夜山)
- 7 H24・6・1(金)～3(日)
奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 8 H24・6・12(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 9 H24・6・20(水) 駿台体育会総会親睦会
(リパティタワー23F)
- 10 H24・7・10(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 11 H24・7・28(土) 薫風45号・会費納入のお願い他発送
(体育記念室)
- 12 H24・8・25(土) 第43回なため会W (陣馬山)
- 13 H24・9・11(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 14 H24・10・9(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 15 H24・10・9(火) 奥鬼怒山荘落成50周年記念事業実行委員会
(体育記念室)
- 16 H24・10・9(火) 駿台体育会理事会
(大学会館3F第1・2会議室)
- 17 H24・10・20(土)～21(日)
那須親睦旅行会・第44回なため会W
(那須岳)
- 18 H24・10・29(月) 駿台体育会親善ゴルフ (久能CC)
- 19 H24・11・13(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 20 H24・11・29(木) 奥鬼怒山荘落成50周年記念事業実行委員会
(アミ)
- 21 H24・12・5(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会
(リパティタワー23F)
- 22 H24・12・11(火) 幹事会・忘年会 (リパティタワー23F)
- 23 H24・12・20(木) 奥鬼怒山荘落成50周年記念事業実行委員会
(アミ)
- 24 H25・1・8(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 25 H25・1・26(土) 薫風46号・会費納入のご案内・
会員名簿発送 (体育記念室)
- 26 H25・1・26(土)～27(日)
駿台体育会と体育会監督会との
合同研修会 (箱根湯本ホテルおかだ)
- 27 H25・2・9(土) 第45回なため会W (石割山)
- 28 H25・2・12(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 29 H25・3・12(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 30 H25・3・16(土)～17(日)
栃木県北部地震による奥鬼怒山荘被害調査
(奥鬼怒山荘)
- 31 H25・3・20(水) 卒業生歓送迎会 (リパティタワー23F)

平成25年度 なため会予算
(自25.4.1 至26.3.31) 財 務 部

1. 一般会計

収入の部		
前年度繰越金	5,805,096	
なため会費	1,650,000	3,000×550口
利息収入	10,000	
諸収入	80,000	
合 計	7,545,096	

支出の部

【活動費】 (総務部)		
会議案内通信費	100,000	総会は会員全員に通知
薫風運送費	170,000	薫風に関わる運送費(1、7月)
慶弔費	70,000	
事務用品費	5,000	
名刺作成費	5,000	
明大スポーツ新聞購入費	10,000	薫風同封
住所不明調査費	5,000	
(財務部)		
会費集金手数料	50,000	
(広報推進部)		
薫風制作費	190,000	20ページ(95,000円)×2(1、7月)
薫風制作通信費	10,000	
(企画振興部)		
なため会ワンデルング費	0	
なため会ワンデルングマネージ交通費	20,000	
(山小屋管理部)		
奥鬼怒山荘備用品	0	MWVの奥鬼怒山荘会計で対応
奥鬼怒山荘ワーク参加者補助費	40,000	
(情報管理部)		
ホームページ維持管理費	10,000	2012年度には、2011年度分6,510円含む
プロバイダー更新費	0	2012年度に36ヶ月分支払済み
(事業運営部)		
会場使用料	80,000	幹事会等の会場使用料
印刷代	5,000	幹事会等の資料印刷代
親睦旅行会マネージ交通費	20,000	
会費納入推進費	65,000	会費未納者の振り起こしにかかる費用
【補助費】		
現役懇親会参加補助費	100,000	会員総会、忘年会参加補助
コーチ助成金	150,000	コーチ活動にかかわる助成金
【渉外費】		
駿台体育会会費	100,000	駿台体育会理事の参加活動費
歓送迎会御祝金	30,000	
監督他部交流費	0	体育館他部の周年行事御祝金
【その他費用】		
バックル製作費	0	
お見舞金	0	
なため会旗	60,000	
会員名簿製作費	0	5年に1回の改訂(次回は2017年度)
奥鬼怒山荘落成30周年記念事業費	700,000	参考:40周年記念の支出450,000円
【予備費】	100,000	
支出合計	2,095,000	
収支差額	5,450,096	
次年度繰越金	5,450,096	
OB基金	4,831,000	
東日本大震災義援金前年度繰越金	252,160	2011年度からの繰越金
総 資 産	10,533,256	

2. OB基金

廉隅家・鈴木家・柴田家寄付金	1,083,000
山小屋募金他	3,257,000
校友会館(紫紺館)建設基金	491,000
	4,831,000

平成25年度事業計画

1. 重点目標

会員サービスの向上
現役交流の推進
財政の健全化(会費納入の強化)

2. 活動計画

- 4月9日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 4月16日(火) 奥鬼怒山荘落成50周年記念事業実行委員会(体育記念室)
- 4月23日(火) 駿台体育会理事会(アガミ・ミ・モン)
- 4月25日(木) 平成24年度会計監査(アミ)
- 5月14日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 5月16日(木) 奥鬼怒山荘の水場修繕調査(奥鬼怒山荘)
- 5月25日(土) 第46回なため会W(大マテイ山～小菅の湯)
- 5月28日(火) 幹事会・総会(リパティタワー)
- 5月31～6月2日 奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 6月11日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 6月19日(火) 駿台体育会総会(リパティタワー)
- 7月9日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 7月27日(土) 薫風47号・会費納入のお願い発送(体育記念室)
- 8月31日(土) 第47回なため会W(筑波山～筑波の湯)
- 9月10日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月5日(土) 第48回なため会W(根名草山～手白沢温泉)
- 10月6日(日) 奥鬼怒山荘落成50周年記念式典(奥鬼怒山荘)
- 10月8日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月8日(火) 駿台体育会理事会(大学会館3F)
- 10月21日(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会
- 11月12日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 11月30日(土) 奥鬼怒山荘落成50周年の集い(リパティタワー)
- 12月4日(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会(リパティタワー)
- 1月8日(水) 運営委員会(体育記念室)
- 1月25日(土) 薫風48号・会費納入のご案内発送(体育記念室)
- 1月25～26日 駿台体育会と体育会監督会との合同研修会(箱根湯本ホテルおかだ)
- 2月1日(土) 第49回なため会W(足和田山)
- 2月10日(月) 運営委員会(体育記念室)
- 3月1日(土) 平成25年度卒業生歓送迎会(リパティタワー)
- 3月11日(火) 運営委員会(体育記念室)

奥鬼怒山荘落成 50 周年 おめでとうございます



後列左から 細矢 武松 菅野 鹿嶋 小川 間 板場 西川 羽部

大洲 吉江 中田 島崎 原 市川 中藪

前列左から 黒米 砺波 池川 山田 鈴木 天野 粕谷 飯村 相良

以上 25 名出席

平成 25 年 4 月 13 日 紫紺館・椿山荘

暑中御見舞申し上げます。

昭和 39 年度卒業 山久会



山久会・大塚
2013/02/02

編集後記

BN 614 石井 克太

今年は7月に入り猛暑が続く連日熱中症による事故や落雷による事故が多発していますので、充分注意して下さい。私は昨年大腸検便を通して大腸内視鏡検査でS字状結腸がんと診断されました。今年の一月に手術をして成功し現在回復に努めています。一年に一回は胃カメラと大腸内視鏡の検査をお勧めします。

今年は富士山が世界遺産に登録されました。国内で十七件目となり、これからは世界遺産を通して自然に対して深く考えていく必要を感じました。また秋には奥鬼怒山荘五十周年を迎え、現役時代の思い出が浮かんできます。最後に東日本大震災と福島第一原発事故が発生して二年四ヶ月が過ぎ、忘れがちなことになる時期に入ってきましたが、決して忘れない心を持つていきたいと思えます。

発行日 平成二十五年七月

編集 鈴木康弘 一色雅男

池上勝彦 石井克太

猪狩 稔 加藤章一

井上稔也 日暮浩美

発行者 明治大学体育会

ワンダーフォーゲル部なため会

印刷所 三協印刷株式会社